

ため岩塩をまくのでツルツルになる心配はないが、まめに洗車しないとさびが早くなる。それでも、冬期間は事故が多発する。

トロントはいわゆるスノーベルト地帯ではないから、積雪量はさほど多くない。一日に三十センチも積もれば、「これは大変、大雪だ」と騒ぐことになる。大雪の朝は出勤前の亭主族の仕事がひとつ増える。言わずもがな、雪かきである。この辺は日本の積雪地方と似ている。庭の芝刈りと雪かきは男の仕事と相場が決まっていて、朝一番に雪と格闘しないことには一日が始まらない。幸いカナダの雪は裏日本のベタ雪と違って砂のような粉雪が多く、郊外に住む人でなければ悪戦苦闘することはない。出勤前の目覚しと考れば苦にもならない。

室内暖房は、コタツとストーブというわけにはいかない。だいたい部屋のスペースは日本の倍と考えてよいから、セントラル・ヒーティングが不可欠。暖房が故障でもしたら一家そろって風邪をひくことになる。カナダ政府の音頭で暖房用燃料は石油から天然ガスに切り替えられつつあり、コストも安くなってきた。真冬でも室内温度は二十度前後に保たれているから、薄手のセーター一枚で快適に過ごせる。日本のようにコタツに入ってみかんを食べるといような情緒には欠けるが、ゆったりと身体を伸ばせるのは嬉しい。

室内暖房のおかげで、職場でも家庭でもお湯をふんだんに使えるのが有難い。

水とエネルギーが安いカナダならではの。冬のメインイベントは、なんといってもクリスマスだ。日本の百貨店と同様、

家の庭木や窓にカラフルな豆電球を飾り付ける。昼は何の変哲もないこの豆電球も、夜ともなると見事な雰囲気をかもし出し、いやが応でもクリスマス気分をかきたてる。普段は財布のひもを固く締めているカナダ人も、クリスマス・シーズンは例外。家族、親戚、親しい友人のためにブレゼント探しに躍起となる。といって高価な買い物をするわけでもない。ちよつと気が利いていれば何でもブレゼントになる。なかには手編みのセーター、木彫りの飾りなど手造りの品を贈る人も少なくない。そしてむしろその方が喜ばれているようでもあり、とくに主婦たちは手芸の技を磨き、競うことになる。

あとは、クリスマス前の都合のよい日を選んでパーティを開き、呼びつ呼ばれつで食事と会話を楽しむ。パーティといっても日本のように大げさではない。ちよつとしたスナックと酒があれば十分である。休暇旅行計画の話、最新の映画、



ウイスキーをちびりながら…

演劇の話題でも出せば、いくら時間があっても足りないほどに談話が長くこと間違いなしだ。

年を越すと寒さはピークになり、日中の最高気温も零下十度以上には上がらない。良く晴れた日でも、風が吹くと、いわゆる体感温度は零下二十〜三十度まで下がり、完全武装しても戸外に長くどどまっていられない。風は判で押したように北から吹き、トロントのダウンタウンでは東西の通りに比べ南北の通りは寒さが数倍にも感じられる。バスや路面電車を待つ時間が長く感じられ、首のすき間から入ってくる粉雪がうとましくなる。

トロントの地下鉄と地下街が発達したのは厳寒をしのぐ知恵だろう。ビジネス街の高層ビルは地下街が迷路のように延び、中はもちろん暖房がきいているから、コートなしでビルからビルへ移動できる。地下街にはレストラン、本屋、衣料品、ドラッグストアと大ていの店はそろっており、寒さをつけて屋外で買物をする必要はない。自宅からオフィスのあるビルの地下駐車場へ乗りつけるビジネスマンは、一日中外気に触れずに仕事することだって可能だ。ビルの入口はたいがい回転ドアを備え、出入りの際寒気が入り込まないよう細かい所まで気を使っている。

ことほど左様に暖房は万全なのではあるが、迷惑な「副産物」に悩まされる。目に見えず、突然現われる曲者である。その正体は静電気。暖房で乾燥すると、所構わず発生する。ドアを開けようと

てノブに触れるとパチツ、車に乗りドアをロックしようとするパチツ。とにかく金属に触れると放電する。金属に限らない。パーティで人と握手した時にパチツときて驚いたことさえある。

そこで欠かせないのが加湿器である。日本の北陸地方などは乾燥器がないと洗たく物の乾きが悪くて困るが、当地では



凍ったリドー運河で滑るオタワ市民。

全く逆である。小型の水車を考えてもらえばよい。濡れた回転ドラムの中でファンを回し、湿気を部屋中に散らすという至極単純な装置だが、これがあるとないとは、静電気の発生具合にずい分と差があるようだ。

カナダの冬の娯楽といえば、なんといってもスキーだ。ところがオンタリオ州は山らしい山がないので、本格的なダウンヒル・スキーはお隣のケベック州からアルバータ州にまかせるとして、最もポピュラーなのがクロスカントリー・スキーだ。カナダ統計局によると、クロスカントリー・スキーを持っているのは二百三十万世帯で、ダウンヒル・スキーの百三十